

学習内容報告書 フォーマット

学校名	只見町立只見小学校
授業者	山田亮, 酒井里美, 横山広美

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

ユネスコエコパークのまち只見の水と海

1-2. 学年

第3・4学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習に時間

1-4. 単元の概要

1学期には、下福井観察の森や三石神社の清水、三石神社近くの堀の水質検査および水生生物等の調査を行い、2学期には、1学期に水質検査した場所に加えて、ふるさと登山で行った尾瀬沼や伊南川の水質検査および水生生物等の調査を行った。子供たちは、サワガニやニンギョウトビケラの幼虫など、きれいな水にいる指標生物の観察を行うことができた。そして、季節によって水質が変わることがないことに気付くことができた。

本単元では、只見町の水についてさらにさまざまな視点から捉えられるようにする。そのため、まず水質検査の結果と水生生物の調査を結び付けて考えさせる。また、祖父母に昔の只見町の様子をインタビューしたり、アンケートをしたりして、今と昔の只見町の自然を比較し、変化していることにも気付かせる。最終的には、今後、只見町の自然をどのようにしていきたいかを考え、実践につなげていく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本単元は、継続して行っている水質検査および水生生物の調査の結果から、只見町の水の美しさや自然の豊かさに気づき、自分たちはその自然を守るために何ができるかを考え、実行することができるようになることがねらいである。

そこで、まず、ゲストティーチャーの話聞き、只見町の自然の課題に気付くことができるようにし、自分が自然のためにできることを考えるきっかけにしたい。そして、ゲストティーチャーに直接質問をしたり、アドバイスをいただいたりして、様々な視点から只見町の自然のためにできることを考えることができるようにしていきたい。最後には、今まで調査したことやゲストティーチャーの話などから根拠を明確にして、自分が只見町の自然のために何ができるのかを考えさせたい。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

只見町の豊かな自然や水について調べることを通して、只見町のよさを感じ、自分が今後、どのように関わって生きていくかについて考え、自分の言葉で表現したり、実践したりすることができるようにする。

1-7. 単元の展開（全16時間）

評価の観点 ア 知識・技能 イ 思考・判断・表現
ウ 主体的に学習に取り組む態度

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	水質検査や生物調査の結果をもとに課題を設定する。	イ 自分がさらに調べたいことを考えることができる。 (ワークシート)
1	グループごとに課題解決のための計画を立てる。	イ グループごとによりよく課題を解決できる方法を考えることができる。 (ワークシート)
4	グループに分かれて調べ学習を行い、課題を解決する。	ア 自分たちの課題について、様々な方法で調べ、解決することができる。 (ワークシート)
2	発表の仕方を工夫しながら調べたことをまとめる。	イ 自分たちでまとめたものを相手にわかりやすくするにはどのようにすればよいのかを考えることができる。 (観察)
2	グループでまとめたものを共有し合い、感想を交流する。	イ 自分たちでまとめたものを相手にわかりやすく表現することができる。 (観察)
1	前時の感想を振り返り、これからの只見町の自然を守るために何ができるかを考える。	イ 只見町の自然を守るために自分たちには何ができるか考えることができる。 (ワークシート)
2	具体的な計画を立て、実践のための準備をする。	イ 自然のためにできることを決定し、計画を立てることができる。 (ワークシート)
2	只見町の自然を守る取組を実践する。	ア 自然を守る活動をするすることができる。(観察)
1	実践した感想を交流し合い、これから自分たちにできそうなことを考える。	ウ 自然を守る活動を通して、自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。(ワークシート)

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

自分たちが調べたことやゲストティーチャーの話を根拠にして、只見町の自然のためにできることを考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>1 前時の感想を振り返る。</p> <p>2 ゲストティーチャーの話を聞き、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>只見町の自然のためにどんなことができるかな。</p> </div> <p>3 自分ができる実践を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみのポイ捨てをしない。 ・ 環境にやさしい石けんを使う。 ・ エコバッグを利用し、プラスチックごみを少なくする。 ・ 只見町の自然のすばらしさを伝える。 ・ ポスターなどを作り、自然を守ることを呼びかける。 <p>4 グループで互いの考えを共有し、いくつかにまとめる。</p> <p>5 全体で各グループの考えを伝え合う。</p>	<p>○ 各グループの資料を基に気づき、感じたことを引き出し、キーワードを板書することで本時の学びに生かすことができるようにする。</p> <p>○ 子供たちが、自分にできることを考えるきっかけとなる課題や根拠となる事実、実際の取組について話していただくことで、本時のめあてをもつことができるようにする。</p> <p>○ T1, T2, ゲストティーチャーで机間巡視を行い、考えがもっている子供には根拠を問いかけていく。また、考えられない子供には、自分たちの発表やゲストティーチャーの話を振り返るようにするなど個別に対応することにより、子供一人一人が自分なりの考えをもつことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈評価〉 只見町の自然のためにできることを考えることができる。 (ワークシート)</p> </div> <p>○ 話し合う際にどうしてそのように考えたのか、それをやるとどうなるのかなどの視点を確認することで、一人一人の考えを尊重しながらグループとして提案する実践を考えることができるようにする。</p> <p>○ グループでまとめた実践について根拠をもって考えられていることを価値付けたり、また、根拠を問いかけたりすることでこれまでの学びを生かして考えることができるようにする。</p>

3. 今回の活動の自己評価

- ゲストティーチャーの話の要点をT2がホワイトボードに書き込み、可視化したことで子供たちの理解が確かなものになった。さらに、ゲストティーチャーの話を教師がもう一度要約したり、理解を確認したりするとよかった。
- 話し合いに積極的な姿勢と相互に意見を出しやすい雰囲気ができあがっていた。また、付箋の使い方が身に付いていて、意見の共有や自他のつながりを可視化するツールとして有効だった。
- グループ差が大きく話し合いがうまくいっているところとうまくいかないところがあった。グループ分けを工夫する必要があった。



4. 今後の課題

- 子供の思考を助けるための教師間やゲストティーチャーとの綿密な打合せが必要である。
- ゲストティーチャーの話はとても参考になったが、子供たちにとっては難しい内容だったので、わかりや伝える工夫をしていくことが課題である。
- 本当にプラスチックごみが悪いのか、使う人間が悪いのか、などの考えも思考の深まりにつながるのではなかったか。



5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。